



平成31年4月10日
記者発表

“重点「道の駅」”及び“重点「道の駅」候補” 選定証授与について

国土交通省では関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた企画を選定し、重点的に応援する重点「道の駅」の取り組みを平成26年度から実施しています。

平成30年度は、地方創生や地域活性化の拠点を目指した「道の駅」の企画提案を募集し、有識者のご意見を踏まえ、北陸地方整備局管内では、糸魚川市の道の駅「能生」を重点「道の駅」に、妙高市の道の駅「あらい」を重点道の駅候補に選定しました。

については、以下のとおり、選定証授与を行いますのでお知らせします。

重点道の駅 道の駅「能生」

○日時：平成31年4月12日(金) 13:40～14:20

○場所：糸魚川市役所 4F 庁議室（糸魚川市一の宮1-2-5）

重点道の駅候補 道の駅「あらい」

○日時：平成31年4月12日(金) 16:30～17:10

○場所：妙高市役所 3F 303会議室（妙高市栄町5-1）

式次第

- ・北陸地方整備局長 挨拶
- ・選定証 授与
- ・記念撮影
- ・市長 挨拶

◆ 国土交通省HP「道の駅」

URL：<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/index.html>

<問い合わせ先>

国土交通省 北陸地方整備局 道路部 道路計画課 課長 神田 真太郎
新潟市中央区美咲町1-1-1 新潟美咲町合同庁舎1号館
代表：025-280-8880(内4211) 直通：025-280-8916

<同時発表記者クラブ>

新潟県政記者クラブ、新潟県政記者クラブ、上越記者クラブ

道の駅「能生」(新潟県糸魚川市) 企画概要

<既設>

H30重点

- 地域の2つの日本風景街道との連携により、次世代観光拠点の形成やサイクリング拠点化を推進
- 地域・産学連携等により機能充実を図り、地域の核となる「道の駅」に向けた環境整備を実施



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
能生	新潟県	糸魚川市	国道8号	既設	平成元年	単独型

提案のメニュー

次世代観光拠点の形成

- ・サイクルイベントツアー等の実施 (日本風景街道との連携)
- ・JNTO外国人案内所の機能充実 (インバウンド向け情報発信機能強化)
- ・特産品販売による一次産業活性化



サイクリング拠点化

- ・サイクルステーションとしての情報発信機能の強化
- ・サイクルイベント等、体験メニューの充実



産学連携による6次産業化推進

- ・高校の実習や交流フィールドの提供 (高校生レストランとの連携)
- ・水産加工物の6次産業化のための環境整備
- ・地元漁協のアンテナショップ設置



機能の多様化

- ・RVパーク、EV設備拡充
- ・子育て支援設備の充実
- ・体験型観光メニューの充実



地域の概要

- ①海や山の観光資源の豊富な地域に「道の駅」が立地**
→地域の2つの日本風景街道等との連携強化による誘客・特産品販売促進
- ②海の幸や自転車道でのサイクリングを求める外国人客の増加**
→インバウンドに対応した地域情報発信機能の強化
→サイクルイベント等の充実、「道の駅」のサイクリング拠点化
- ③多様な機能を有し、魅力向上を図り続ける「道の駅」**
→水産加工物の6次産業化のための環境整備、地元水産高校との連携
→充電インフラ設備等の拡充整備、子育て支援設備の充実等

<提案の先駆性・ポイント>

- 地域の2つの日本風景街道と連携した次世代観光拠点の形成
- JNTO案内所(カテゴリーI)の機能充実によるインバウンド観光推進
- サイクルイベント等の充実、道の駅のサイクリング拠点化
- 機能の多様化(6次産業化環境整備、充電インフラの整備、子育て支援充実)

地域の核となる
「道の駅」に向けた
環境整備

インバウンド観光推進
サイクルツーリズム推進
6次産業化の推進
機能充実による多様化

交流人口の拡大

雇用創出

地域経済の活性化

<実施内容>

- 日本風景街道と連携したサイクルイベントツアーや特産品販売の実施
- サイクルツーリズム推進、サイクリスト受入れ環境拡充整備
- 地元高校、漁業協同組合と連携し、水産加工物の6次産業化推進のための環境整備、レストラン等の連携イベント開催
- RVパーク、EV充電施設の拡充整備
- おむつ交換スペース等、子育て支援設備の充実
- 釣りポイント設置、施設改修による観光メニューの充実

道の駅「あらい」(新潟県妙高市) 企画概要 <既設>

H30重点候補

○ DMOによる道の駅を拠点とした地域づくり ~インバウンド誘客の推進~



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
あらい	新潟県	妙高市	国道18号	既設	平成12年	一体型

提案のメニュー

① DMO

サテライトオフィス
 ・DMO機能を整備し、ゲートウェイ機能の強化



② 情報発信の拠点化

・JNTO外国人案内所機能強化(英語・台湾語対応)
 ・インバウンド向け情報発信の拠点化



③ キャッシュレス化

TaxFreeの推進
 ・インバウンド観光推進による「MYOKO」知名度の浸透



④ アクティビティセンター 拠点整備

・街なか、周辺地域への誘客
 ・広域的なサイクリング拠点化



⑤ 二次交通のハブ駅

・街なか、周辺地域への誘客



⑥ 高速道路一時退出

・上信越自動車道 新井スマートICからの一次退出を可能とすることによる拡充整備する道の駅への誘客

地域の概要

- ① 観光を基軸とした地域づくりのため、妙高版DMO設立
 →DMOを活用したゲートウェイ機能強化、情報発信機能の強化
- ② 冬季に頼った観光からオールシーズン型観光への転換
 →広域的なサイクリング拠点化
 →道の駅を拠点とした街なか、周辺地域への誘客
- ③ 高速道路、国道などの交通結節点に位置する「道の駅」
 →高速道路ネットワークを賢い利用、新幹線駅からの二次交通の充実

インバウンド
観光客倍増

道の駅を拠点とした
誘客と街なかへの誘導

<提案の先駆性・ポイント>

- DMOによる観光を基軸とした地域づくりによる「MYOKO」知名度向上
 - ・インバウンド向け情報発信の拠点化
 - ・インバウンド観光推進のための施策充実
- 自転車を活用した街なか、地域への誘客促進、広域的なサイクリング拠点化
- 道の駅の二次交通ハブ駅
- 高速道路ネットワークの賢い利用による交通結節点の強化

<実施内容>

- DMO「妙高ツーリズムマネジメント」のサテライトオフィス設置
- JNTO外国人案内所機能の充実
- キャッシュレス化・TAXFREEの導入、推進
- 自転車等のアクティビティセンター整備
- 観光周遊バス運行、レンタサイクル等の二次交通の充実
- 上信越自動車道からの高速道路一時退出実験の実施